

第1回大田区景観まちづくり賞  
表彰式及び景観シンポジウム  
議事録

平成28年5月25日（水）  
大田区民ホール・アプリコ小ホール

保 下 課 長     それでは、定刻となりましたので、ただいまより「第1回大田区  
景観まちづくり賞表彰式及び景観シンポジウム」を開催させていただきます。

ご来場いただきまして、まことにありがとうございます。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、大田区まちづくり推進部都市計画課長の保下でございます。よろしくお願いいたします。

携帯電話をお持ちのお客様はマナーモードにお切り替えの上、会場内での通話をご遠慮願いますようよろしくお願い申し上げます。

それでは開会に入らせていただきます。事務局を代表いたしまして大田区まちづくり推進部長、黒澤より開会のご挨拶を申し上げます。

黒 澤 部 長     本日は、お忙しい中、「第1回大田区景観まちづくり賞授賞式及びシンポジウム」にご参加いただき厚く御礼申し上げます。

大田区景観まちづくり賞ですが、景観まちづくりへの関心を高め、大田区らしい魅力ある景観形成を推進していくため、昨年度創設したものでございます。昨年7月13日、ちょうどこの同じアプリコ小ホールにて「まちづくり賞キックオフシンポジウム」を開催し、募集を開始させていただきました。

受賞決定に至る経過を簡単にご紹介させていただきたいと存じます。10月30日の締切までの間、街並み景観部門、景観づくり活動部門の2部門の募集に対しまして、街並み景観部門には72通、景観づくり活動部門には18通の応募をいただきました。その後、景観専門部会での選定審査、そして大田区景観審議会での審議、答申をいただきまして、街並み景観部門受賞5件、景観まちづくり活動部門受賞2団体を決定し、本日に至ったものでございます。

この間、たくさんの応募をいただきました皆様にこの場をかりて御礼申し上げます。

最後になりますが、賞の選定に当たりまして多大なご尽力をいただきました景観賞専門部会の委員の皆様、大田区景観計画策定当初から一貫してご指導いただいております東京工業大学、中井景観審議会会長、そして募集に当たりましてご協力をいただきました自治

会町会等多くの関係者の皆様に心より感謝と御礼を申し上げ、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。まことにありがとうございます。

(拍手)

保 下 課 長 続きます、審査経過に入らせていただきます。景観賞専門部会の野原部会長、よろしくお願いいたします。

野 原 部 会 長 ただいまご紹介いただきました、私、景観賞専門部会長を仰せつかっております横浜国立大学の野原と申します。よろしくお願いいたします。

今回は、第1回、初回の景観まちづくり賞ということで、実際のどのぐらいの方に応募いただけるかと、どう盛り上がるかと、すごく不安だったところもあるんですが、結果としては取り越し苦労と申しますか、多数のご応募をいただきまして、非常に感謝しております。どうもありがとうございます。

今回設けました二つの部門、街並み景観部門と景観づくり活動部門ですが、先ほどご紹介ございましたとおり、街並み景観部門では応募総数72通、重複もございますので、67物件です。あと景観づくり活動部門に関しましては18通、15団体の応募、非常に予想を超えた多くの応募をいただきまして、大変感謝しております。

今、スライドにございますとおり、まず、最初に書面審査ということで、景観賞専門部会の部会で8人の審査委員によって厳正なる審査を行いました。

まず、街並み景観部門に関しましてですが、こちらにございますとおり、11月から12月2日にかけて書面審査を行いまして、その中で評価の高い物件を確認した上で、年末、平成27年12月16日に第1次審査が行われました。その中で非常に詳細な議論を経た結果、10件が最終審査候補として選定されました。その後、本年、平成28年1月21日、22日にかけて、まず、現地での視察を行いまして、たたずまいの様子とか、周辺環境を確認した上で最終審査を行いました。

その結果、最終的には表彰対象としては5件、「桂川精螺の工場建築」、「ヤマトグループ羽田クロノゲート」、「蓮月」、「紅葉通り（旧同潤会の住宅分譲地）」及び「小池の風景と住宅地」、こ

の5件が最後は表彰対象ということになりました。

実際、応募内容としても非常に多岐にわたり、建築物だけでなく緑豊かな風景であったり、あるいは公共空間、道路とか公園とか河川であったり、さまざまな大田区らしい風景をたくさん応募していただきました。非常に幅広く、我々の審査も非常に難航をきわめたといえますか、非常に質の高い応募内容が全体としてございました。

第1回ということで、非常に大田区ならではの景観というのを、我々自身、審査委員自身もいろいろ考えさせられる重要な非常に大切な機会にもなりましたし、ぜひ、これから大田区の街並み景観の維持向上に向けて、皆様、さらなる発展を願いたいというふうに思っております。

続きまして、景観づくり活動部門に関しましても、こちらは活動そのものを評価する部門になっておりますが、先ほど申しましたとおり、18通応募をいただきました。こちらと同じように11月に書面審査を行いまして、その書面の中で非常に評価の高いというふうに判断したものを第1次審査で選定いたしまして、その中からヒアリング調査の候補団体を5団体選定いたしました。その後、こちらも同じく28年1月20日、21日に各5団体に我々のほうからヒアリング調査をさせていただいて、そのヒアリング調査での内容及び活動場所を確認した上で、同日、最終審査を行いまして、表彰対象としては最終的には、2団体ということで、「洗足池及び周辺地区における環境保護・育成活動」及び「池上6・7丁目、東矢口周辺の花とみどりのコミュニティ活動」という2件が選定されることとなりました。

こちらと同じく、非常に多岐にわたる歴史的な景観の継承であるとか、あるいは戸建ての住宅地を中心とした景観の維持活動であるとか、あるいは地域の活気ある商店街の景観づくり活動など、さまざまな応募をいただきまして、その中から、こちらも非常に議論が難航いたしました。結果としてこの二つの団体を選定させていただきました。

受賞された皆様は本当におめでとうございます。これがまさに今後の景観づくり活動のきっかけといえますか、終わりじゃなくて始

まりだと思しますので、ぜひ、ここからさらなる景観づくりに励んでいただきたいと思えます。残念ながら受賞されなかった団体も、これは受賞されなかったから評価が低いということではなくて、非常に皆さんさまざまな魅力ある景観づくり活動をしていただいた結果としてご応募いただいたと思えますので、今後も景観づくりのこういう表彰の機会があったら、ぜひ、応募していただくとともに、さらなる景観づくり活動にまた励んでいただきたいと思っております。

以上をもちまして、私のほうからの審査経過とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長 野原部会長、どうもありがとうございました。

続きまして、各受賞案件ごとに講評、表彰理由につきまして専門部会の委員の皆様から報告、説明をさせていただきます。

それでは、街並み景観部門より行わせていただきます。

一つ目の受賞作品でございます。「桂川精螺の工場建築」につきまして、野原部会長より、よろしくお願いたします。

野 原 部 会 長 引き続きまして、専門部会委員の田中委員がご欠席ですので、私のほうから代理でこちらについてお話しさせていただきます。

「桂川精螺の工場建築」ということで、皆さん、「下町ロケット」のロケ地としても最近名高い建築物ですけれども、大田区は、東京23区の中でも最も町工場の数が多いというふうに言われていまして、ものづくりの風景というのが一つの大田らしさの特徴でもないかと思っております。中でも受賞された桂川精螺、ねじの工場ですが、工場建築は、大田区に町工場が急増していく戦後期、特に1940代という非常に早い黎明期の段階で建設された工場建築が、今でもこのように継承されて、立派な姿を見せているという意味で、非常に大田らしい風景を今まで継承し続けているというふうに思っております。

特徴的な看板であったり、鉄塔が国道であったり、堤防からも見えるということで、周辺からの見え方なんかも非常に意識されてい

る、そういう建物である点とか、あるいは、端正な非常に戦後の1940年代、そのときの最先端といいますか、そういったものをあらゆる正面だったり、立面のたたずまいとか、あるいは、繊細な窓のところの様子とか、そういったものが非常に当時を感じさせる意匠ということで、こちらが今でも現代に受け継がれているというところが非常に評価された、そういう物件となっております。

保 下 課 長      ありがとうございました。

続きまして、二つ目の受賞作品でございます、「ヤマトグループ羽田クロノゲート」につきまして、野原部会長より、よろしく願いします。

野 原 部 会 長      引き続きまして、また、私のほうから報告させていただきます。

「ヤマトグループ羽田クロノゲート」、こちらは羽田空港の近くです。こちらにも工業とか物流とかが多く集まる、そういうエリアにおける大きな物流施設です。

通常は、こういう物流施設というのは施設の性格上もあって、非常に大きな建物になることが多くて、そういう意味でスケール感が地域とうまく合わなかったり、そういったことがよくあるんですが、この建物に関しましては、スケール感をうまく調和させるために、入り口の部分は少し抑えめにして、ちょっと奥のところに建物の大きさを、ボリュームを分けるような、そういう扱いであるとか、あるいは、普通は入り口に車が入ってくるようなルートがたくさん出てしまうことがあるんですが、隣接する環状8号線だったり、あるいは脇の道から歩行者がたくさん通るような道に対して、そちらを非常に意識して、圧迫感のないような形になっていることと、その全面を「和の里」というふうに言われていると思いますが、地域共生を意識した広場であるとかランドスケープ、あるいは、地域に貢献するようなカフェやベーカリー、保育所や体育館など、そういった周辺との接点といったところが非常に意識されてつくられているというところが周囲との街並みにも合った、これからの先端に行く物流施設のあり方かなということが評価されて、今回の選定に至ったということになっております。

保 下 課 長      ありがとうございました。野原部会長、どうもありがとうございました

ました。

続きまして、3番目の受賞作品でございます「蓮月」につきましては、平澤委員から講評のほうをよろしくお願いいたします。

平澤委員 大田区の区民審査委員の平澤でございます。

「蓮月」の受賞理由について述べさせていただきます。

「蓮月」は、今、古民家カフェとして運営されていますが、そのちょっと前はおそば屋さんだったんです。それで建築当時、昭和2年だそうですが、その当時は旅籠ですか、本門寺の参詣の方に旅籠として利用されていた、そういう経緯があります。

それでは、読み上げになりますが、表彰理由について述べさせていただきます。

本建築物は、池上本門寺山門の西側に位置し、山門から池上梅園へ通じる本門寺関連寺院が建ち並ぶ散策路の近傍にある。本門寺周辺は、大田区の歴史、自然及び環境上の重要な場所であるとともに、近くを流れる呑川周辺エリアと相まって将来にわたり良好な景観形成が望まれる地域である。

本建築物は、貴重な昭和初期の木造建築の保全、活用という単体としての評価とともに、本門寺参道沿いの萬屋酒店など、点在する古建築と一体となり、本門寺周辺の景観形成に寄与している面も評価されています。

門前町の風情を復活、整備させる拠点としても重要であり、古建築の意匠と雰囲気兼ね備え、今後も存続が望まれる建物であり、現在利用されている敷地内の庭を含め、さらなる整備がされ、建物とともに周遊の観光資源として定着することが期待される。また、施設の運営・維持管理がボランティア主体で行われており、今後、地域コミュニティ形成の場として機能することも期待されている。

ということで、以上読み上げでしたけれども、ありがとうございました。

保下課長 平澤委員、どうもありがとうございました。

(拍手)

保下課長 続きまして、4番目の受賞作品でございます。「紅葉通り（旧同潤会の住宅分譲地）」につきましては、荘委員よりよろしくお願

たします。

庄 委 員 景観賞専門部会委員の庄真木子でございます。区民でございます。  
紅葉通りですけれども、もみじの並木が印象的、魅力的な住宅街  
の通り、街路の景観でございます。

こちらは1923年の関東大震災の復興事業として、開発、供給され  
ました住宅地の区画でございます。昭和の初めの計画的な住宅地  
形成の歴史を今に伝えてくれているものです。

開発当初に植栽されましたもみじ、このように通りの両側に並ん  
でおりますもみじの樹木が今もかなりの本数が残っております、  
一部は伐採されておりますけれども、それが通り一帯に落ちついた  
リズムや心地よいたたずまいをもたらしております。

審査のための現地視察時は、あいにく、もう落葉した後だったん  
ですが、先日参りましたところ、青葉が見事で、ご新緑の回廊がで  
き上がっております、目にも涼やか、爽やかな、そういった眺め  
を楽しむことができました。また、紅葉の季節には、通行する人々  
の目を楽しませてくれるものというふうに想像されます。

開発当初に建てられ木造住宅は現在もうほとんど残っていないと  
いうことで、景観における要素として、街路や並木と建物との関係  
性という点からは、多少の議論もございましたけれども、歴史ある  
特徴あるこの一帯の街並みや街路樹の魅力、また、私道であるにも  
かかわらず、植栽がかなり保全されてきたということ、さらに、一  
帯としてある程度まとまった区規模が今に残されているということ、  
そういったことを総合評価しまして、今回、受賞にふさわしいの  
ではないかということで決定させていただきました。

今後も区内に残る貴重な景観資源の一つとして維持管理されてい  
くことを真に期待させていただきたいと思っております。

ご受賞、おめでとうございました。

保 下 課 長 庄委員、どうもありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長 続きまして、5番目の受賞作品でございます。「小池の風景と住  
宅地」につきまして、加藤委員からよろしく願いいたします。

加 藤 委 員 委員の加藤と申します。

「小池の風景と住宅地」の表彰理由を申し上げます。

写真ではちょっと見えにくいところもありますが、小池を中心に囲むすり鉢状の地形で、その斜面に立地する住宅地が坂のある台地と低地を結ぶ大田区の地形を象徴し、コンパクトに形成されており、その景観を高く評価しております。

小池公園は、2009年に“安らぎと潤い空間の創造”というコンセプトにリニューアルオープンいたしました。中心の池は、雨水と湧水を利用し、護岸は自然石、緑は高木、中木、低木を組み合わせた植栽と水生植物などで緑の輪郭をつくり出しております。池周辺には水鳥や魚など、動植物生態の観察もできます。また、坂を上り、小池を見おろす高台に立てば、小池を囲む住宅地の風景だけでなく、富士山も眺望する時期もあります。

また、公園を活用した年1回の小池まつりを初め年3回実施されている自然観察会の場にもなっております。その他、小学校の協力により公園内の樹木に名前をつける取り組みも行われております。水辺で遊ぶ親水エリアも池の中にあり、池を一周できる回遊路も整備され、保育園の園児、児童などの遊び場とか、近隣住民の休憩スポットとして地域にも親しまれている場になっております。

今後、すばらしいこの景観を保全するために、周辺の住宅地を含めて良好な景観形成が図られることを期待しております。

皆さん、よろしく申し上げます。

保 下 課 長 加藤委員、どうもありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長 続きまして、景観づくり活動部門の表彰理由に入らせていただきます。

一つ目の受賞作品でございます。「洗足池及び周辺地区における環境保護・育成活動」につきまして、杉山委員よりよろしくお願いいたします。

杉 山 委 員 専門委員でございます杉山でございます。日本カラー・デザイン研究所というところで色彩計画等をやっております。

こちらの洗足でございますけれども、1933年、昭和8年の創立以来、風致協会は、水利組合、それから耕地整理組合というような前

身をお持ちでございますけれども、そういった地元の方々の集まりで、風致協会になって以来、実は東京で唯一当時の形で残され、ずっと組織され活動してきた協会でございます。そういった意味で大変珍しいといえますか、貴重な活動をなさっている団体というふうに感じております。

表彰理由でございますけれども、洗足池及びその周辺は、大田区の景観の基礎となる地形と土地利用による景観形成の経緯を知るに格好の場所であり、大田区の本当に真ん中ぐらいに位置しております。景観というのは大変地形が重要でございます。そういったものを保全してきたということの活動では、本当に東京都で唯一と言っていい協会でございますので、大田区の誇りということで、ぜひ、第1回の受賞が各委員の共通の思いでございました。

洗足風致協会は、単に古いものを大切にするというだけではなくて、現在、小学校、中学校などと共同で、毎年テーマを検討して、次世代の風致、それから景観の価値といったものを大切にしたい気持ちや行動力を醸成するという長期的な構想を持つ一方で、毎年、季節に合わせた毎日の植栽の維持管理、それから、今なお生き生きと活動しているという見事な景観まちづくり団体であるというふうにご考えております。

また補助金を使うことなく、周辺のさまざまな問題にアプローチしながら、風致の維持に取り組んできていらっしゃるというような、風致協会制度が目指した当時の保存と利用といったものの両立を見事に果たしてきたという経営手腕にも感服するものでございます。地元中学生を巻き込んだ「ホテル復活プロジェクト」についても、ボランティアの協力も得ながら、継続的に取り組むなど、地域力の向上に寄与する活動も行っており、将来への期待が膨らむ、そんな活動をなさっております。

大田区景観まちづくり賞のお手本として広く区民に周知するとともに、このような取り組みが大田区のみならず、東京、そして日本全国で展開されることを願っております。

受賞、本当におめでとうでございます。

保 下 課 長 杉山委員、ありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長 それでは、二つ目活動部門でございます。「池上6・7丁目東矢口周辺の花とみどりのコミュニティ活動」につきまして、杉田委員、よろしく願いいたします。

杉 田 委 員 東京工業大学の杉田です。  
表彰理由について述べます。

受賞者であります「なでしこの会」が生み出しているのは、花とみどり豊かな生活景です。一般的な住宅地の中を活動エリアとしておりまして、そこには特別な歴史や自然地形といったものはありませんけれども、地域の人々をつなげるすばらしい活動が展開されていることを高く評価しました。

具体的には、同会では、自然体で無理をしないという明確なスタンスのもと、月8回という精力的な活動を継続していること、活動報告のおたよりを毎週という高い頻度で近隣に配布し、活動を周知していること、また、育てた植物を使った子供向けのイベントの開催や地元障害施設との交流など、地域のさまざまな主体をつなげる活動を積極的に行っていること、これらの点を評価しました。

以上が表彰理由となります。

保 下 課 長 杉田委員、どうもありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長 また、受賞者の皆様、まことにおめでとうでございます。

(拍手)

保 下 課 長 それでは、これより表彰状の授与に入らせていただきます。

本日は各受賞の代表者といたしまして7名の方に壇上にお上がりいただいております。

大田区長、松原忠義より表彰状の授与をさせていただきます。

区長、よろしく願いいたします。

それでは、お名前をお呼びいたしましたら、ステージの中央のほうにお進みいただければと思います。

一つ目の受賞作品でございます。「桂川精螺の工場建築」につきまして、株式会社桂川精螺製作所様、お願いいたします。

松 原 区 長 第1回大田区景観まちづくり賞、街並み景観部門、受賞名、桂川

精螺の工場建築、受賞者名、株式会社桂川精螺製作所。

あなたは大田区らしい魅力ある街並み景観の形成に寄与されました。よってその功績を讃え表彰いたします。

平成28年5月25日、大田区長、松原忠義。

おめでとうございます。

(拍手)

保 下 課 長 続きまして、二つ目の受賞作品でございます。「ヤマトグループ羽田クロノゲート」につきまして、受賞者、ヤマト運輸株式会社様、株式会社日建設計様、代表いたしまして、ヤマト運輸株式会社様、よろしく願いいたします。

松 原 区 長 大田区景観まちづくり賞、街並み景観部門、ヤマトグループ羽田クロノゲート様。

以下同文につき、割愛させていただきます。

おめでとうございます。

(拍手)

保 下 課 長 続きまして、三つ目の受賞作品でございます。「蓮月」につきましては、代表いたしまして、株式会社蓮月様、よろしく願いいたします。

松 原 区 長 大田区景観まちづくり賞、街並み景観部門、蓮月様。

以下同文につき割愛させていただきます。

おめでとうございます。

(拍手)

保 下 課 長 続きまして、四つ目の受賞作品、「紅葉通り（旧同潤会の住宅分譲地）」につきまして、受賞者、南雪谷自治会様、よろしく願いいたします。

松 原 区 長 大田区景観まちづくり賞、街並み景観部門、紅葉通り（旧同潤会の住宅分譲地）。

以下同文でございますので、割愛させていただきます。

おめでとうございます。

(拍手)

保 下 課 長 五つ目の受賞作品でございます。「小池の風景と住宅地」につきまして、受賞者、小池若者組合様、よろしく願いいたします。

松原区長 大田区景観まちづくり賞、街並み景観部門、小池の風景と住宅地、小池若者組合様。

以下同文でございます。

おめでとうございます。

(拍手)

保下課長 続きまして、景観づくり活動部門の表彰に入らせていただきます。

一つ目の受賞作品につきましては、「洗足池及び周辺地区における環境保護・育成活動」につきまして、受賞者、公益社団法人洗足風致協会様、よろしくお願ひいたします。

松原区長 第1回大田区景観まちづくり賞、景観づくり活動部門、受賞名、洗足池及び周辺地区における環境保護・育成活動、受賞者名、公益社団法人洗足風致協会。

あなたは、大田区らしい魅力ある景観を守り、育てる活動に寄与されました。よってその功績を讃え表彰いたします。

平成28年5月25日、大田区長、松原忠義。

おめでとうございます。

(拍手)

保下課長 それでは、二つ目の受賞活動に入らせていただきます。「池上6・7丁目、東矢口周辺の花とみどりのコミュニティ活動」につきまして、受賞者、なでしこの会様、よろしくお願ひいたします。

松原区長 第1回大田区景観まちづくり賞、景観づくり活動部門、受賞名、池上6・7丁目、東矢口周辺の花とみどりのコミュニティ活動、受賞者名、なでしこの会様。

以下同文。

おめでとうございます。

(拍手)

保下課長 これにて表彰状の授与を終わらせていただきます。

皆様、もう一度、温かい拍手をお願ひいたします。

(拍手)

保下課長 続きまして、それでは、受賞者の皆様から一言コメントをいただきたいと思ひます。

順次マイクのほうをよろしくお願ひいたします。

大田区には、風靡な景色が多い中で、ものづくりのまちということで、私どものような工場を景観賞として選んでいただいたというのは、非常にうれしく思います。同時に、いつも働いている職場なので、とても不思議な感じがします。

鉄塔なんですけど、今、創業78年目で、初代の社長はもう亡くなっていますので、なぜこのような鉄塔を建てたのかということも聞くことができませんけど、社章になっています上に星がついていて、その星を目指して頑張れというような意味でつくった鉄塔なのかなというふうに思っております。

毎日、出社するときに、晴れている日でも、雨の日でも、塔なのでそびえ立ってしまして、これを見上げて頑張るかという気持ちでやっているような鉄塔なので、愛着を持っていただいて、非常にうれしく思います。

それから、先ほど、お話にもありましたけれども、下町ロケットのドラマのロケ地に選んでいただきまして、ロケ地をハンティングしているロケハンというのがありまして、ロケハンの方がなぜうちの会社を選んでいただいたのかと言いますと、単純に下町ロケットなんで、形状がロケットに似ているからということがありまして、それから、あと、内装を監督に来ていただいて見ていただいたんですけど、昭和のレトロな工場の感じが非常にいいということで、選んでいただきました。

トントン拍子に話は進んでいったんですけど、1点だけちょっとうちのほうからも注文をつけさせていただきまして、初めTBSで下町ロケットをやる前に、BSで同じように下町ロケットをやっていたんです。そのときは小説と同じような設定で大田区にある町工場というような設定でやっていたんですけど、今度はじゃあ趣向を変えて、同じ下町でも例えば葛飾のほうで、多摩川も荒川に見立ててやらせてほしいみたいな話だったので、「いやいや、それは待ってください」と。「うちは80年近く蒲田の工業協会にも所属していますし、ここで多摩川じゃなくて荒川だと撮っていただくのは、とても無理です」という話をしまして、「大田区の町工場ということでやらせていただけるなら引き受けます」ということで引き受けさ

せていただきました。

ものづくりということで、いろいろ、今、うちの桂川精螺は、もともと螺の字に子供の子をつけますと、ねじをつくっていた会社なんですけれども、そこから時代はいろいろ弱電をやったりですとか、建築の部品をやったりだとか、変遷しまして、今は主に自動車の部品をつくっています。

自動車の部品の業界というのは非常に競争が厳しくて、これから国内だけじゃなくて海外でもものづくりというのを進めていかないと、やっぱり厳しいような状況になっていまして、簡単な品物は国内でなく海外に出ていく。海外に出ていく中で、やっぱりものづくりのブランドというのが非常に大切だと思っていまして、大田区のものづくりのブランドというのは、世界に通用するものだと思いますので、その名に恥じないように、景観賞をとりましたので、本当にもものづくりのほうでも下町ロケットのようなことを実現させていきたいなと思っていまして。

ちょっと長くなりましたけど、このような栄えある第1回目の受賞させていただきまして、まことにありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長      ありがとうございました。

                  続きまして、よろしくお願ひいたします。

ヤマト運輸      本日は、大田区景観まちづくり賞を受賞、まことにありがとうございます。我々の施設は、大田区の羽田旭町にございまして、羽田という立地を生かしました陸海空のスピード輸送ネットワークと、建物が7階建てになっているんですけれども、高付加価値の機能を有した物流施設でございます。

羽田クロノゲートというまず名前の由来なんですけど、一つはギリシャ神話に出てきます時空をつかさどる神様、クロノスと、あとはアジアと日本をつなぐ玄関口のゲートウェイ、この二つに由来しております。

2013年9月に竣工いたしまして、ことしで3年目を迎えております。

羽田クロノゲートは、事務棟、物流棟と、「和の里」と呼ばれる

地域貢献ゾーンの三つから成り立っております。特に「和の里」と呼ばれるところは、地域の方によくご利用になっていただいております、我々のグループ会社が運営していますカフェであったり、あとは託児所であったり、体育館のような施設がございまして、地域との共生を目指しております。

また、建物各棟は、和をもってつながるというメッセージを込めて、全て円のような形のデザインになっております。また、「和の里」の中には、敷地の緑化にも積極的に取り組んでおりまして、里山であったり、噴水というのもございまして、これから暑くなってくるので、近くのお子様であるとかというのが、これからよく遊びに来る時期ではないかなと思っております。

また、羽田クロノゲートには、無料でご覧になっていただける見学者コースというのがございます。当然予約制ですので、インターネットや電話でも申し込みは可能なんですけれども、私に言っていただければ、私のほうで担当部署のほうと窓口になって交渉いたしますので、きょうお集まりの皆様の中で、まだご覧になっていただいている方がいらっしゃいましたら、ぜひ、我々の施設にお越しいただきたいと思っております。

本日は、受賞、どうもありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長      どうもありがとうございました。

続きまして、よろしく願いいたします。

株式会社 蓮月      大田区景観まちづくり賞受賞、ありがとうございます。

昨年の4月に「古民家を残してほしい、蓮月という場所があるんだけど、残してほしい」という言葉をいただきまして、ふらふらと団体の集まっているところに行き、無知のまま「やります」と言ったのが始まりで、建物というものを残すということはすごく大変で、いろんな方々の力をもらい、みんなの力を合わせて今の形をつくっていくことになりました。

基本的には地域の主婦の人たちがメインとなって、天井裏に上り、2センチぐらい積もったほこりを落とすところから始まって、壁を、柱を一つ一つ磨き、そしてカフェにしていきました。そうしていく

過程の中で、やはり、家が生み出すもの、力、それを残そうという思いというものは、人と人をつないでいくなという、家族としてあるべき心が一緒にスタッフとやる中で、どんどん芽生えていきました。

今に至るまで、何度もけんかもしましたし、悩み、苦しみ、何度も笑ったり、それをずっと繰り返して、今、蓮月をやらせていただいております。こういう賞をいただきまして、僕たちは本当にうれしいです。

89年間、あそこにずっとあるというものがすごく当たり前の風景だと思っただけですが、その当たり前ということにすごく幸せだったりするのが日常だと思っただけですけども、やはり、僕たち自身が蓮月という建物でもらった心のつながりというものを、蓮月という場に皆さんがまた来ていただいて、いろんなつながりをつくっていただきたいなと思っております。大田区のみならず、世界に向けて僕たちは蓮月というものを背負って頑張っていこうと思っておりますので、皆さんもぜひコーヒーを飲みにきてください。

きょうは受賞、ありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長      ありがとうございました。

続きまして、よろしく願いいたします。

南 雪 谷 自 治 会      受賞ありがとうございます。

私は、この町へ住んで、今、実際の年が70なんですけれども、ここもみじが丘という通りになっているんですけど、これは学校の歌の1小節に、区立の小学校、私の育った学校に歌われているんです。その意味がよくわからなかったんですけど、ある程度になって、町を歩くようになってから、ああここにあるんだと気がついて、最近はまだ防犯パトロールで歩いていて、ああ結構きれいだ、ここはと、大人になってやっと景色というんですか、あれがわかるようになってきて、これいいよねというので、大田区景観まちづくり賞があるということで、こういうのがあるんですけど、推薦してよ、ここそんなにいい町かな、でも考えたら、いいよねということで、推してくれるならお願いしますということでお願いしたら、ありがたいこ

とに選ばれて、この賞をいただいたんです。

これからはもっと子供たちにも伝えて、大事に町会として育てていきたい、見守っていきたくと思いますので、これからもよろしくをお願いします。

いろいろありがとうございました。お世話になりました。

(拍手)

保 下 課 長 どうもありがとうございました。

続きまして、よろしく願いいたします。

小池若者組合 本日は大田区景観まちづくり賞をいただきまして、本当にありがとうございました。

平成20年4月12日に小池公園のオープニングセレモニーが盛大に行われました。そのオープニングセレモニーに協力したのを契機に小池若者組合は翌年の4月の第1土曜日から小池公園春まつりを開催し、ことしで第7回を迎えました。すばらしい自然環境の小池公園、取り巻く住宅地、好環境での小池公園春まつりを通じて地域の大人から子供さんまでの交流ときずなづくりを今後も継続していきたいと思っております。

本日はまことにありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長 ありがとうございました。

続きまして、景観づくり活動部門に入らせていただきます。

よろしく願いいたします。

洗足風致協会 今回は第1回の栄えある景観まちづくり賞をいただきました。本当にありがとうございました。

洗足風致協会は、洗足の風致を守るということで形成されている団体でございます。大田区と地域の方々と協力し合いながら、洗足の風致を守っていくということ、私たちのメンバーは本当に洗足池を愛することではほかの皆様方にも負けないような情熱をもって活動しております。

それで、今度、洗足池の前の歩道橋があるんですが、あの歩道橋がどう見ても風致にそぐわない。洗足池の駅から見たら、歩道橋が前にあって、池が全然見えないということだったので、区のほうに

お願いいたしまして、都とかけ合いました、地元の方々から嘆願書を出しまして、何とか今度あそこを取り払っていただいて、きれいな景観のいい場所にできるんじゃないかと思っております。ですから、それに合わせまして、洗足風致協会のほうでもいろいろまたアイデアがあったら、皆様方と一緒に考えていけたらいいなと思っております。

また、あの地域、小池小学校の校歌に、「ひじりのゆかりのいくとこしえに」とあるんです。その「ひじり」というのは何かかと、まだ私はわかっていません。あそこは日蓮上人が足を洗ったといういわれと、それから勝海舟さんがあそこにお住まいになっていて、今、墓所になっている、お墓になっているということがございます。ですから、「ひじり」というのは、その方々かなとは思っているんですけども、あそこに鳳凰閣という建物がございまして、これが前、やっぱり勝海舟さんゆかりの建物なんですけど、今度、それを大田区で買っていただきました。それで勝海舟さんの記念館にしていただけということで、今動いていただいております。そうになりましたら、ますます洗足池も皆様方に愛される土地になってくるんじゃないかなと思っております。

風致協会は、大田区ではできない活動、そういうところで風致にかかわる協力がしていけたらいいなと思っております。これからも皆様方のご意見を伺いながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(拍手)

保 下 課 長      ありがとうございます。

続きまして、よろしく申し上げます。

なでしこの会      名もない、お金もない、歴史もない、なでしこの会が受賞されたということは、本当にうれしく思います。

どうして受賞されたのかなと思いますと、審査員の方々が会員の、活動している方の心を感じてくださったのではないかと私は自負しております。

きょうも代表の方たちが10人ほどあちらに見えていますので、皆様、拍手をお願いいたします。

(拍手)

なでしこの会      ありがとうございます。

地域に草むらがいっぱいありました歩道を、600メートルくらいの広さになりますかしら、お花を植えてきれいにしていまして、そうしますと、通る方たちがとても感謝してくださるので、それで私たちの労をねぎらっていただけますし、また、私たち三つの目的があるんですが、お花をきれいに植えるということと、私たちが年がいても元気で介護保険のお世話にならないということと、地域のコミュニティの発展に努めるということ、地域の人たちと仲よくしていこうということで、時あらば、いろんな方たちと接するように活動を考えております。

今、4月から新しくやりましたけれども、今度高齢者の方たちが草むしりはできないけれども、何かいろいろ役に立つことができたらいいなというような、そういう心を育てようと思ひまして、私のところなんです、昔の応接間を利用して集まりをつくり出しました。そこでもいろいろな意見が出ていますので、これからそういう気持ちも、お年寄りがお世話になるだけではなくて、自分たち、どんな小さなことでも隣の人のお役に立てたらいいなという、そんな前向きな心を育てていったらいいなということも、すごく私たちの願いの一つになっております。

これからも元気でやっていきますので、皆様、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長      ありがとうございました。

受賞者の皆様、温かいコメント、まことにありがとうございました。

それでは、続きまして、区長の講評に入らせていただきます。

それでは、松原区長、よろしくお願ひいたします。

松 原 区 長      どうも皆様、おめでとうございます。

第1回ですから、大変貴重な方々だなというふうに思います。

和辻哲郎さんっていますよね。和辻哲郎さんの風土という本がありますけれども、その本に和辻さんが日本国じゅうを歩いて、いろ

いろその町々の風土を記しているもの。それから、同時に世界じゅうを歩いて、いろいろ世界の町を歩いて、そこに住む人たちとの共存というものを非常に的確に書いている本があります。

私もそれを見ていて、大田区もいろいろあるんですが、何とかして、そういう大田区にいながら大田区のことを意外と知られていないというのが、区長になっての実感でございます。

ちょうどこの席で、実は大田区の写真コンテストをやって、ここは大田区の一年度の事業がありますけれども、その事業を皆さんに撮っていただいています。そして風景も撮っていただいているところですが、今回、景観賞ができて、より一層地域に愛着を感じてくださるかなと思っています。

やはり、私たちが何げなく住んでいる中に、とても大事なものがたくさんあるんだというふうに思うんです。それがやっぱり景観かなと思います。そういった意味では、一つの地域地域のランドマークにも景観というものがあるんだと思います。

ここは皆さん方がこういうふうにやっていただいております。審査員の方と、受賞なさる方々の今のお話と完全に一致しているんです。だから、これがすごく私、きょうは印象になりました。選ぶだけじゃなくて、選ばれた側と非常に一致した形の中で景観がつけられていくというのが、とてもいいなと思いました。

ただ、選ばれたのは今回は七つですね。応募が90あったというものですから、その90がどんなものかというのは、私も気になっているんですが、結構いろんなものがあつたのかなと思います。そういった意味では、大変新しい第1回目というものの価値がすごくあるかなと思います。

ちょうど桂川精螺さんの社長さんと、今、前の会で一緒でございました。よろしく言っておりました。

ヤマトさんのほうは、きのう、羽田ヴィッキーズの会がありました。大田区のプロバスケットチームも頑張っていたところでございますが、きのう、皆さん、500人ぐらい集まっていたか、そこでも皆さんと勇気をいただきました。

蓮月さんのほうは、私、池上で地元に住んでおりますので、いろ

いろと新しい形でお店をやっていただいで。今度は、そうそう、本人の口から出なかったものですから、私が宣伝させていただきますが、「ふきげんな過去」ということで、小泉今日子さんが出る映画になるそうでございます。半分ぐらいここが撮影現場になるということでございますから、楽しみにしております。封切りはこれからでございます。ぜひ、皆さんのほうも、テアトル新宿と書いてありますので、ぜひ見ていただければありがたいなというふうに思います。ぜひ頑張ってくださいるように期待をしております。

同潤会で南雪谷って、すごくいいところなんですよ。田園調布もいいんですけど、南雪谷もとてもいいところでございます。もみじが非常にあって有名なところですけど。新たに見直してくださったような感じもいたします。

小池若者組合の皆さん方も本当にいいところで、勝海舟の洗足池と小池というのはつながっていたんですね。親子みたいなところですから、夫婦の池と言ってもいいぐらいですけども、洗足池と小池というのが二つの対になっていて、非常に珍しいところですので、ぜひ、守っていただければというふうに思います。

なでしこの会、私も今言ったように池上に住んでいるので、あそここのところは結構長いんですよ。区役所で一生懸命手入れをするんですけども、とても手が回らないんです。こういうところで地域の方が一緒に守っていただけるとするのは、とてもいいことで、これがヒントになって、実は、今、大田区で18の出張所がありますけれども、18のまちづくりということを行ったのも、ここがやっぱりヒントになっていまして、ほかの団体もございますけれども、そういうことを定期的にやって、皆さん方の生きがいと、それから見ている方の楽しさとか、癒やしというんでしょうか、そういったものも一緒になっているということでございます。

そういった意味では、きょう第1回をこういう形で皆さんが参加していただいで、とてもよかったなと思います。大田区もこういうちょっとした、ほっとした癒やしの空間とか、そういったものもとても大事なまちづくりの一環だというふうに思っております。

ぜひともこれからも地域のために、また、区民の皆さん方のため

に頑張っていたいただければと思います。

また、中井先生をはじめ選考委員の先生方、ありがとうございました。大変いいご指摘等をいただきまして、先生方のおかげですばらしい第1回目を飾ることができたと思っております。

大田区といたしましても、これから大事な景観を守りながら、いい街をつくっていきたいと思います。関係者の皆さん方に心から厚く感謝と御礼を申し上げて、ご挨拶にかえさせていただきます。

本日は大変おめでとうございました。ありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長      ありがとうございました。

以上をもちまして、大田区景観まちづくり賞の表彰式を終わらせていただきます。

また二部でパネルディスカッションの準備がございますので、19時10分まで休憩とさせていただきます。

本日は皆様、どうもありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長      また、受賞者の皆様につきましては、この後、記念撮影がありますので、自席にてお待ちいただければと思います。

(休憩 午後6時57分)

(再開 午後7時10分)

保 下 課 長      それでは、準備が整いましたので、これより第2部のパネルディスカッションを始めさせていただきますと思います。

テーマにつきましては「今後の景観まちづくりへの期待～賞の審査を踏まえて～」でございます。

それでは、コーディネーターの野原部会長、よろしくお願いいたします。

野 原 部 会 長      引き続きまして、私、出番が多いんですが、第2部のディスカッションのコーディネーターをさせていただきますと思います。改めまして、よろしくお願いいたします。

改めまして、第1回の景観まちづくり賞受賞の団体の皆様、本当におめでとうございます。

きょう、私、うれしいなと思ったのは、何と言いますか、第1部

のときの会場の景観が非常に華やかで、和服を着ていただいたり、はっぴを着ていただいたり、本当にそれぞれの地域・団体の個性が見えるいい表彰式だったんじゃないかなと思っておりまして、実は昨年の7月ぐらいに、同じところで登壇してお話しさせていただいたんですけれども、そのときに景観が顔色なんじゃないかというようなお話もしたような気がするんですが、まさに皆さんのそれぞれの活動の様子とか、あるいは、広がりみたいなものが、それぞれの皆さんのきょうのたたずまいにあらわれているなという気もしまして、そういう意味では非常に華やかでうれしい表彰式だったなというふうに改めて思いました。

大田区では、2013年の10月から景観計画というものを策定して、そちらで実際の施行運用を始めて、今で2年半、3年弱になってまいりまして、きょうは景観賞の専門部会の部会長という役割でここに登壇させていただいていますけれども、景観審議会のほうでもいろんな景観に関する議論をこの2年半重ねてまいりました。

景観と言うと、2004年に景観法というのが日本では施行されました、大体12年になります。かつ、そういう景観の取り組みが日本の中で発展してきたというか、非常にふえてきたのは、高度経済成長期というか、60年代から70年代にそういう動きが日本全国でも少しずつ見え始めて、そのころはそれぞれの自治体が景観の条例というものを一つ一つの自治体がつくって、一生懸命、景観をみんなで守り育てていくというのは、非常に難しいんですけれども、各地方、地域が独自の取り組みを一生懸命やってきたというところが、12年前に法律が制定されました、それを国全体としても少し支援していく形というのができてきました。

景観計画だったり、景観条例だったり、あるいは景観の取り組みというのが12年前に景観法をきっかけにして、またさらにふえてきたという、そういう流れの中で、大田区での景観の取り組みというのは、少し後発隊といいますか、順番としては少し後ろ側で、こういう具体的な景観の施策を景観計画としてやってきたと思うんです。逆に言えば、全体を俯瞰しながら、次の新しい時代の景観のつくり方みたいなものが考えられる、しんがりかどうかわかりませんけれ

ども、後ろから少し見えてくる、そういうような形で景観の取り組みが進められるのかなと思っております。

景観の取り組みというと、行政で計画を策定したり、あるいは条例をつくって、いろいろな景観のルールを使いながら、いかに全体の調和を図っていったり、取り組みをしていくかということが中心で行われることが多いと思うんです。ルール型というか、少し守るというか、非常に問題があったり、課題がある景観をどうおさめていくかということに、少し腐心していくことが多くて、これも非常に難しい、丁寧かつ時間のかかる取り組みです。こういったこともすごく重要であるんですが、一方で、本当に景観をよくしようと思うと、ご自身、かかわられている皆さんが、ある意味、自分から自発的に、かつ、少し創造的にだったり、楽しんだり、工夫をして景観をつくっていくという活動が育まれていかないと、本当にみんなが「これはいいな」と思えるような景観というのは、景観づくりとしてなかなかやっていけないなと思っております。

その中で、景観まちづくり賞というのが今回第1回でさせていただいたわけですが、各皆さんが自発的、あるいは創造的に、より高めていく、魅力ある風景というのがつくられていたところに、ネガティブじゃなくてポジティブに、それをみんなでお祝い、表彰していくことで、より魅力があったり、創造的だったり、高めていくような景観形成ができないかなということで、ポジティブな意味を込めて、賞という形をとって景観づくりというものを進めてきたという形でやってみたのが第1回だったと思っております。

正直、やる側としては、第1回で一体どのぐらいの方が応募していただけるのかなと、ちょっとドキドキしながら、例えば、3件だったら、3件のうち1件選びましたというのはなかなか難しいなとか、そういう不安を抱えながら、一体皆さん、どういう関心を持ってくださるのかなと思っていたんですけれども、先ほどの審査経過でも申しあげましたとおり、街並み景観部門に関しても72通、あるいは景観づくり活動部門に関しては18通という応募をいただきまして、全くの取り越し苦労だったということで、非常に多彩な取り組み、活動を大田区で展開されているんだなということを再認識する

ことができました。

そういう意味では、ここにおられる皆様も大田区での景観まちづくり賞ということで、賞の選定に非常にご尽力いただきました。景観まちづくり賞を通じて景観を考えていくというのは大田区では初めてだったわけですが、各委員の皆さんの立場から、今回景観まちづくり賞を通して感じた感想から始めたいなと思います。景観まちづくり賞への感想、あるいは、そこで得た大田の景観に関する新たな発見であるとか、再認識した点とか、そういったところも含めて、総じてお話をお伺いしたいなというふうに思っております。

では、口火は杉田委員に切っていただいて、景観まちづくり賞で感じた感想その他をお話しいただければなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

杉 田 委 員 杉田です。

私は、景観賞の審査にかかわるのは、ほかの自治体でもやったことがなくて、今回、大田区で審査をするのが初めてだったんですけども、今回改めて感じたこととして二つあります。

一つは、今回、景観づくり活動部門のほうでは、活動をなさっている方にヒアリングをさせていただきました。どういった目的で活動をしているのか、どういった活動をしているのかといったことを、その思いを伺ったんですけども、そうすると、単純にその場所を見ている以上の魅力が見えてくるというか、お話を聞いた後では、見えてくる景色が違うなというのを改めて感じました。

それまでは、もちろん景観というのはハードだけではないというのは感じてはいたんですけども、本当に今回強くそれを思いました。

ハードの景観をつくる上での背景となるような話というか、物語みたいなものがとても景観の価値を高める大きな役割を果たすんじゃないかなというふうに思いました。

そういった意味では、例えば、今回の景観まちづくり賞でも、写真だけ載せるのではなくて、その景観が形成されていく上で、どういう人がかかわり、どういう思いを持って、どんなふうな活動をしてきたのかということセットで伝えていく、そうすると、よ

り深い場所の価値というか、景観の価値を伝えていくことができるんだらうなというのをまず一つ思いました。

それから、もう一つは、審査で、今回残念ながら選ばれなかったたくさんの応募作品があったんですけれども、その中で、例えば祭りの風景であるとか、電車が通るような風景であるとか、テンポラリーというか、一時的な風景というか、動的な風景みたいなものも景観として出されてきた一般の市民の方がいらっしたんです。そういったものをこれからどんなふうに考えていけばいいんだらうかというのを、答えは今ないんですけれども、考えさせられました。

ハードだけではなく、先ほど言ったように、ソフトの魅力というのも大事だというふうに考えていくと、常に恒常的にある風景だけではなくて、一時的に発生するような本当に風景ですね、そういったものをこれからどんなふうに考えていったらいいのかなというのを感じたところです。

以上です。

野原部会長　　ちなみに、杉田先生的には、その辺の動的風景というのは評価に入れていくべきだという感じでしょうか。どういうふうに捉えていらっしゃるかも伺いできたら、うれしいんですが。

杉田委員　　入れていくべきだと考えているんですけれども、ただ、難しいのは、やはり、場所とのセットになっていなければ、なかなか評価が難しいと思っていまして、例えば、祭りであれば、同じような場所で毎年毎年開催するような風景がその場所にあられる、現状として立ちあられるのであれば、評価の対象としてもいいのではないかなというふうには考えます。

野原部会長　　ありがとうございます。

実際、ちょっと裏話的にというか、我々は審査して本当に大変でして、審査は。本当にいろんな形のいろんな景観の応募がございまして、景観というのは数字ではかれるものでもございませぬし、どうやって評価していくのかというのは、本当に議論をしながら、何というか、議論を重ねた中での審査になりました。

実際は書面というのが最初に出てきて、書面を見ながら私たちは審査をせざるを得なくて、ここにおられる委員の皆さんは区民の皆

さんもいらっしゃるので、実はよく知っている方と、大田区に何らかに関連しているメンバーも多かたりするので、若干、見ただけでわかってしまうこともなきにしもあらずなんですけど、でも、皆さんが書面の中でどういうふうはこの景観を意識されて、どういうふうに応答されてきたのかというの、非常に大きな審査ポイントと申しますか、そういったところだったのかなというふうに思っています、そういう意味で、すごくわくわくする活動のあり方とか、あるいは、本当に愛着ある風景というのが、そこで非常に伝わってきたものというのが目に飛び込んできて、よりこれは推していくべきなんじゃないかとか、そういう議論が出たのかなというふうに審査している間では感じたところもございました。

では、次は、区民議員の皆様方にお話をお伺いしようかなと思っております、今度が一番奥の加藤委員から、今回ご参加いただいた感想だったり、ご意見もいただければと思います。

加 藤 委 員 加藤と申します。

何でおまえがこんな景観の委員なんかしているんだということで、皆さん、そう思われていると思うので、簡単に自己紹介をさせていただきます、感想を述べたいと思います。

私が景観行政とかかわったのは、大田区の景観計画策定という委員募集のときがありまして、ちょうど4年ぐらい前なんですけれども、そのときに参加して、応募して、一応委員にさせていただきました。

会社勤めをしているときは、地域に関してはほとんど関心もなく、リタイアしてからは若干地域がどういうものかということで関心を持つようになりました。その初めに、やはり、大田区自体、どういうふうになっているのかということで、いろんな大田区をかなり端から端まで歩き回って、大田区って、地形なり文化なり、こういう形でなっているなということが大体わかってきました。

それと同時に、並行して、他の地域がどういうふうになっているのかなということで、結構、一人でいろいろ地方の都市をぶらりと歩いて、ここはこういうふうになっているのかとか、あと、地域の方に話しかけて、どうですかという形で、いろんな形で、景観だけ

じゃないですけども、観光とか環境とか、そういう観点で、いろんなところもある程度見るようになりました。

と同時に、こういうまちづくりに関するセミナーとか講座というのもしろんなところでやっているの、機会があるごとに、そういう知識を得ながらやってきました。

一番私が感謝しているのは、さほどそういう景観に対して特にもとからあったというものではなくて、リタイアしてからやり出したということで、この委員になって、皆さんのいろんなやりとりの中で、私自身もすごくいろんな観点で見られるようになったのかなということで、委員になって感謝しております。

次は感想なんですけれども、査定したのが3年ぐらい前で、その後、どうするかということで、私がやり出した4年前は、多分、区民の景観に関する関心はほとんど薄かったんじゃないかなと。その中で計画が策定されて、その後、どうするのかなということで、区民の方々により関心を持っていただくということで、この会が、表彰の制度ができたんじゃないかなと思っております。

先ほど、お話があったように、どの程度募集されるのかなというのがすごく私自身も心配だったんですけども、結局、90件という予想を超える反響があって、なかなかいい感じだなという感想は持っております。

それで、特によかったなと思うのは、いろんな地道な活動もあるんですけども、まず、多数の皆さんが応募をされたということが一番よかったのかなと思っています。

それと、あと、私、最初に言ったように、大田区をかなり歩いたつもりです。応募の中で、回ったことはあるんだけど、あっ、こんなところをこういうふうに見たら、こういうものがあるんだというような新しい発見ですよ。同じところを見ていても、応募のアピールポイントとかというところで、また別の見方があるなということで、地域にはそういう宝というのがいろいろあるなということを感じました。

小池もそうなんです。私の家の二、三分行けば小池があるんですけども、今回、応募していただいた中で、小池はこういうところ

がすばらしいんだ、これはもっと大田区に知ってもらったほうがいいよというようなこともあって、私も地元を振り返るといふか、新たな発見をさせていただきました。

あと二つ目に、残念に思うことがあるんです。計画をつくる段階で重点地区ということで大田区に4カ所ぐらい設定しております。一つは呑川とか、多摩川流域とかというのは結構重点的にやっていこうという地域だったんですけども、残念ながら呑川に関しては、区民の方々の景観に関してはいいと思っていないのかどうかわからないんですけども、応募が1件もなかったんです、私が見ている限りでは。だから、大田区の中心に流れている呑川なんかは、もっともって興味を持って、やっぱりよくしていけないとまずいのかなというふうに実感しました。

あと、多摩川も数件の応募はあったんですけども、アピール点がちょっと弱かったというところもあって、多摩川は今回選ばれていないんですけども、そういう大田区が一生懸命やっているところに対しての応募がなかったということで、ここら辺は今後の行政施策の課題の一つかなというふうに感じました。

以上です。

野原部会長

ありがとうございます。

そうですね。川の風景というものは非常に大田の中では重要で、多摩川とか幾つか出てきたところもあったんですけども、今回、呑川はなかったということで、たしか7月のシンポジウム的时候に、私、マエストロという映画ですごい川が真っすぐになっているシーンが出てきて、いいなとか言ったような気がするんですけども、残念ながら出ませんでしたねという感じもありますけれども、今後、続けてきつと景観まちづくり賞は第2回があるって言って大丈夫なんでしょうか、あるのかもしれないと思いますので、ぜひ、今後、応募に向けていろんなご準備をいただいてもいいのかなと思います。

最近、私も変な技能がついてまいりまして、私は大田区で五、六年ぐらい、いろんな活動やお手伝いをさせていただいているんですけども、そのご縁もあってか、区民の皆様や熱心な活動をされている方に比べたら全然まだ大田区全体を見られてはいないんですけ

れども、なるべく私も大田区の中を歩いて、風景を見るようにして  
いましたら、ドラマとかで最近結構大田区はいっぱい出てくるんで  
す。最近、ちょっと坂を見ただけで、この坂は雪谷か池上あたりじ  
ゃないかとかというのがわかるように、だんだんなってまいりまし  
た。検索したら、やっぱり東雪谷三丁目だとか出てきたり、そうい  
うふうに見えてくるんですけれども、多分、大田の風景が何か今い  
ろいろなところでクローズアップされているところが多々あるなど  
いうふうにいつも感じていまして、そういう意味でも、ぜひ、区民  
の皆様も応募も含めて、いろいろ盛り上がって発展していけばいい  
のかなと思ったりもしております。

では、続きまして、荘委員のほうから感想をお願いいたします。

荘 委 員 荘でございます。

私も以前は大田区には寝に帰るだけの生活だったんですが、区内  
で過ごす時間というのがふえるようになって数年がたつんですけれ  
ども、そういった中で、今回の審査にもかかわらせていただいて、  
改めて感じたのは、大田区は本当に東西に広だけあって、一くく  
りできない景観ネタの豊富さというんでしょうか、そういったもの  
を非常に感じました。バラエティがあるといいますか、地形的にも  
小高い台地や坂道があって、一方で平らな海に近いところがあって、  
そして大きな川もあって、緑もあって、埋立地もあってと、産業地  
帯、工業地帯もあれば商業地、住宅地、あるいは歴史、伝統のある  
地域もあり、そして大きな交通網が区内を横切ってという、そうい  
った中で、今回の景観賞の募集の推薦のポイントの一つに大田区ら  
しい魅力が感じられるものということがあったかと思うんです。大  
田区らしい魅力自体が非常に幅広くて、間口もいろいろあるんで、  
応募件数90件というのは、このバラエティの本当にあらわれだっ  
たのではないかなというふうに思っています。

そういった中で審査の過程では、景観資源というか、対象物その  
もの、例えば建築物なら建築物だけとか、緑なら緑だけということ  
だけでは必ずしもなく、例えば周辺環境とどうかかわり合っている  
かとか、どういうふうに周囲の環境となじんでいるかとか、あるい  
は、一つの方向、方角からだけではなく、別の方向や別の高さから

見たらどうなんだろうとか、また、公共性にはどういうふうに配慮しているんだろうか、どんな工夫をしているんだろうかとか、そういう見方、景観ならではの視点を持ちながら、ほかの委員の方々とも検討を進められたのが、非常によかったことかなと思っております。

あわせて、景観ですので、眺める側、その景観を見て眺めて感じる側の心持ちとして、その眺めというのはどう映るだろうか、そんなことも想像しながら審査に当たらせていただいて、それが非常に良かった、よい経験だったなというふうに思っております。

あと、最後に、もう一つは、今回、受賞には入っていないんですけれども、大田区の交通網、縦横無尽に走る交通網にまつわる景観というんでしょうか、大田区は国道、都道を初め幹線道路も何本も南北、あるいは東西に通っておりますし、鉄道もJR在来線、新幹線、私鉄も何本もありますし、さらに航空路の入り口であり、出口でありということで、そういった交通網にまつわる眺め、景観、あるいは交通網のほうから移動しているところから見た大田区の逆に景観、眺めという、そういった視点もあるのかなと思うんです。

そう考えますと、交通網にまつわる景観の存在感の大きさみたいなものも非常に感じておまして、大田区に住んでいる、あるいは区内に住んでいる、あるいは働いている、学んでいる方々だけではなく、大田区を通る、通行する、通過する方々からも眺められているわけで、そういった視点から眺めてどうなのかということも今後は少し考えていけるといいのかなというふうに、大田区の景観というのは、そういう意味では、通行者、通過者にもいい意味でも、いろいろな意味でさらされているんだなということを、今回、改めて感じた次第です。

野原部会長     ありがとうございます。先ほど、最初は寝に帰るだけだったとおっしゃっていましたが、この景観審査だったり、あるいは、その前から荘委員も景観計画も含めた活動をしていただいていたけれども、この数年で荘委員自身の大田区の景観のものの見方の変化とか、そういった違いとかはありますか、この数年で見えてくる見え方がちょっと変わるとか。

庄 委 員　　そこまで悟ったところはないんですけども、以前は余りに知らなかったなということは感じています。やはり知るといことは、興味を持つといひますか、大事にするための第一歩といひますか、人間は知らないものといひのは過小評価しがちなところがありますので、知るといことは非常に大事であり、今回の景観賞なんかもそういった役割を果たし得るものなのかなといふふうには思ひます。

野 原 部 会 長　　ありがとうございます。

では、引き続きまして、平澤委員のほうからよろしくお願ひいたします。

平 澤 委 員　　平澤です。私は今回、審査する側といひのを初めて経験したんですが、実は建築の設計のほうをやっていまして、過去に幾つか逆に応募して審査される側で落選続きで、随分苦労しましたけれども、今回は審査する側であるといひことで、池上に在住していまして、池上の街並みといひますか、景観づくりに興味を少し持ちだして、今回の審査員に応募してなったといひか、こうなるんですけども、私も団塊世代の人間なんですけれども、戦後我々がアメリカやヨーロッパに追いつけ追い越せのいひゆる働きバチで一生懸命やってきて、景観どころじゃないよと。公害があつたり、いろいろなことがあつて、やっと今少し身の回りを振り返ることができて、景観が注目されてきたのかなと。もちろん、昔からそういうことはあつたと思ひますけれども、みんなの目が少しずつそういう余裕のできる、今、世の中になつてきたのかなといひところが、タイムリーな景観賞の創設といひことになつたのかなと思ひていひます。

それで、今回、参加させていただいて、本当に広範な応募で、しかも審査基準をどこに置くか、軸足をどこに置くかによつて、えらい評価が違つてくる。それで項目を幾ら並べても、その重さですか、一つの項目の重率といひか、その辺をどのぐらいに置くかといひことによつてえらい違つてきます。

最終的には、皆さん、景観といひのは心持ちいいものといひか、五感に訴えるものじゃないかな思ひんです。理由をつけて聞いて、なるほどなといひものはあると思ひんですけれども、大半は五感で見つて、誰もがやっぱりこれはいいよなといひものが、まず大枠であ

って、あとは理由を聞いてみたりということで納得するということ  
ろがあると思います。

特に今回はいわゆる景観のものとして、建物だったり、自然だ  
たりするものと、それから活動として、これから創造したり継続し  
ているものということで、今回は洗足池のホテルを復活させるとい  
うんですか、それがかなり魅力的で、私もそこに賛同したんですけ  
れども、聞いてみると、風致協会は東京都で唯一残った協会で、今  
も続いているという、そういう長い間守ってこられた経営方針と言  
いますか、そういうものを守ろうとする気持ちが見えてきて、さら  
に深く理解できたということがあります。

それから、なでしこの会の方々も本当に自然体でやって長続きさ  
せようという意識、これもヒアリングで初めてわかって、応募して  
いる写真とか、応募要項だけだとなかなか理解できないものがあっ  
て、残念ながら、応募者の中をまず書類審査で落とさなきゃいけな  
いというところがあって、その辺がちょっと残念かなと思うんです  
が。それと、建物とか景観なんかは現場へ行って、自分たちの肌で  
感じて評価するというものも、写真がうまい人で、文章がうまい人  
がいい点数をとれるというわけじゃなくて、やっぱり現場へ行って、  
いいものを肌で感じるというのも必要かなと思って、なるだけ現場  
審査に重きを置くようにと、私はお願いして、できればみんな見て  
みたいかなと思ってやってきました。

感想を含めてですけれども、よろしくお願ひします。

野原部会長 ありがとうございます。

平澤委員、審査される側でもあったころもあるとおっしゃって  
いたんですけれども、される側からする側になられて、何かされる側  
へのアドバイスといったらあれですけれども、応募するに向けて、  
こういうことがポイントなんじゃないかなとか、何か感じたことは  
ありますか。

平澤委員 我々審査していますが、逆に言うと、審査されているんですね。  
こういう審査員の方が選んだ物件というのはこうなんだ。だから我々  
も過去に応募した建築がありますが、やっぱり審査員の方がこうい  
うメンバーだよという、その審査員に通るようなプランをやって

みようかななんて卑近に思ったことがありましたけれども、やっぱり審査する側も審査されているんだなというのは感じます。

野原部会長 ありがとうございます。肝に銘じたいと思います。

感想としての最後に、杉山先生のほうから、杉山先生はこのメンバーで唯一といいますか、ほかのところでも景観、あるいはこういうところの審査なんていうのも豊富なご経験をお持ちだと思いますので、その観点も含めて、今回感じられたこととお話しいただければと思います。

杉山委員 今、ご紹介ありましたけれども、私も幾つか、ある程度ですけれども、ほかの自治体での景観賞に参加させていただいたりしておりますけれども、でも、立ち上げというものに携わったのは初めてでございます。1回目ということで、大田区は大変人使いの荒いところだとよくわかりました。

というのも、27年、昨年からの動きというご紹介が先ほどございましたけれども、その前の年度から専門部会ということで、審査基準はどうするんだろうとか、どういうものを対象にしようかというようなことで、ほかにもまた先生方がいらして、皆さんで大変討論を重ねたんです。そういったようなことから、実はフェイスブック等々を拝見していましたらば、景観に関係する方の言葉で、大田区で景観賞がどうも決まったようだよと。そのときの評価がすごく玄人好みの渋い事例を選んでいるねというのがお声でございました。でも、きょうの受賞の皆さんのご感想などを伺ったりすると、大田区らしい景観ということを少しは発信できたのかなというふうに、ちょっと安心した次第でございます。

というのも、ここに並んでいらっしゃる方のほかにもいろんな先生方が参加して、委員の方が評価事項をどう考えるかというようなことと、それから、区の関係の方はいろいろ支所というか、各地域で活動なさっている職員の方々も推薦を考えてくださったのかなと思っておりますし、それから、推薦を受けて、あるいは、どうだろうかということで、応募してくださった90件の皆さんと三者と申しますか、その相乗効果というか、掛け算掛け算という形で、成果がほかから見ると、ああ、すごいなという評価を、ちょっと悪口だっ

たのかもしれないですけども、受けたなというふうに感じました。

そういった意味で、大変人使いが荒いと申しましたけれども、非常に、先ほど野原先生もおっしゃったし、荘先生もおっしゃいましたけれども、大田区の景観というのは、東京都内では群を抜いて多様性に富んでいるというふうに思います。ほかの区ですと、どちらかと言うと、新しい建物がいいねとか、あるいは自然が豊富だよとか、ちょっとある傾向を持っていらっしゃるところが多いんです。それに比べると、海から川から、そして台地に上がって行って、崖線もあるし、非常におもしろい地形であるし、それから、歴史的にも本当に新旧さまざまな魅力に富んでいます。

ですから、今回の中で、実は私個人的に言うと、もっともっとたくさん上げたかったというか、受賞をたくさんふやして、そして、例えば、住宅地というようなことですか、もっと倉庫とか、物流地点ですか、飛行場付近ですか、多摩川ももっと差し上げたかったなとか、そんなふうにちょっと残念なこととしては、やはり限界もございますので、そういったさまざまな魅力ある大田区の本当にちょっと一端でしかなかったかなというようなこと。でも、代表的なものが皆さんのご推薦の中から選べたということがよかったなという点と、まだまだ大田区の景観の魅力というのはございますので、きょう来ていただいた方にも、ぜひ、もっとこういうところがあるよというようなことで、情報交換等々させていただけたらいいなど、そんなふうに思っております。

野原部会長      ありがとうございました。

先ほど玄人好みというようなお話もありましたけれども、先ほども我々も審査されているというお話がありましたが、今回、こういう選定になったことで、どういう皆さんも評価というか、大田区らしい景観かうまくあらわれているのかなと、若干今でも不安に思っていることもなきにしもあらずなんですけれども、でも、非常にバラエティと特徴に富んだ受賞の、街並み景観は5物件、活動で2物件だったのかなというふうに思っています、こういう景観の賞ですと、例えば、本当に新しくできた大きな開発のビル群とか、そこでやられている工夫があるところとか、それぞれ先ほど杉山先生か

らあったとおり、特徴が各自治体だったり、各エリアであることも多いんですけども、そういう意味で幅広い風景、皆さん、大体多様性とか、そういったお話が、きょう伺っている中でも出てきたのかなというふうに思っています、私も今回残念ながら受賞までは至らなかったものに関しても、非常に大田区にはこんなに風景が多様であるんだというのを本当に勉強させていただいたというか、こんなにバラエティがあるんだなというふうに思いました。

例えば、やはり、先ほどもものづくりの町だというお話もありましたけれども、工場景観だったり、町工場の景観というのも幾つか出てまいりまして、中では例えば現代の町工場というか、これから町工場がどういうふうに頑張っていくのかなというところを、ある種、建物だったり、そういったところで表現していた、そういったものとかというのもありましたし、最近、大田区で、やはりどうしても工場の数も少し減ってしまっていて、大体減って壊れてしまうと、何になるのかなと横目で見てみると、一般的な建売住宅というか、小さい戸建てのおうちになることがすごく多いんですけども、残念ながら、特徴的かなと言われると、ちょっと、かなというふうに思うような風景にどんどん変容してきてたりするんですが、その中で一生懸命、これからどう次の世代に今あるものづくりだったり、風景を受け継いでいくかということをしているようなものもありました。

それ以外にも、例えば、戦後のモダニズムと言いますか、近代主義的なときにできた戸建ての住宅というのがたくさんあるというのがすごく勉強になりました、当時、50年代とか60年代に建築家の方とか、そういった方が自分たちとして大田区を選んで、都心のちょっと脇ですかね、の非常に魅力ある場所として選定されていることから、そこで実験的な取り組みとかをやられているというのがたくさんあるというのが、今回わかりまして、不勉強だったと言いますか、非常にそれも発見だったなというところもありましたし、地域の小さな文化財と言いますか、文化財でちゃんと指定されるほど立派とまでは言えないんですけども、地域の中では非常に大事だよねと言われるようなものを選定いただいたものもありました。

あるいは、緑、邸宅の例えば庭とか、そういったものが結構たくさん出てまいりまして、やっぱり、こういう時代ですと、庭も新しくマンションにしたりとか、いろんな状況の中で、失われていくことがあるんですけども、それを何とか緑をうまく残しながら、かつ、ちょっと新しくしていくとか、それをどうやって維持していくかということで、いろんな取り組みで、いろんな工夫、回復だったり、保全だったり、そういったことをやられていくような、そういった事例もすごく多く見られました。

あと、先ほど、交通の話もありましたけれども、公共施設と言いますか、河川だったり、道路だったり、堤の堤防だったり、そういった土木構造物と言われることも多いような、そういったものというのが、実は大田区の中で非常に景観的にも大きな位置を占めているんだなということがわかるくらい、そういったものもたくさん応募がありました。

こういったものというのが、なかなか、ふだん接している皆さんだからこそ気づかないものとか、そういったものもたくさんあるんじゃないかと思うんですけども、今回、こういう賞で改めて見ると、こういう風景が実は、毎日通っていたんだけど、そういう目では見なかったねとか、あるいは、先ほど知ることが第一歩だというお話もありましたが、そういった形で今回の賞で上がってきたものとか、あるいは、そういう目でもう一回大田区を見直してみると、いろんなものが掘り起こされてくるのかなという意味では、非常に有意義なものだったんじゃないかなというふうに思っております。

としゃべっているうちに、もうあと10分ぐらいしか時間がありませんね。もう軽く1周したら終わってしまうという、非常に申しわけないような状況でもあるんですけども、最後にとというか、次に、今後の大田区の景観まちづくり、あるいは賞も含めてでも結構ですが、景観まちづくりがどういう方向に向かっていくといいのかということに関する期待に関してお話を伺いたいなと思いますので、同じ順番で恐縮ですが、もう一回、杉田先生のほうからご意見、これからの期待についてお話しいただきたいと思います。

杉 田 委 員      まず、一つ目に、先ほど、受賞者の方から、日常的な風景で、自分たちは価値に気づいていなかったというようなお話があったかと思うんですけれども、この賞を受賞することで価値を見直すきっかけになる可能性があるんだなというのを感じました。気がついた価値を、自分たちの中でそれを大事にしていくというのはもちろんなんですけれども、ぜひ、その価値を発信して行っていただきたいなというふうに思います。きょう、受賞なさった方々には、ぜひ、景観づくりを盛り上げていく先導をしていただきたいというふうに思います。それがまず一つです。

それから、2点目に、特に景観づくり活動部門のほうなんですけれども、普通の通常一般的に言われるまちづくりと、どういうところが大きく違うのかなというのを考えてみると、特定の場所に対して継続的な働きかけをしていく、その場所に手を入れ、環境を育てていくというか、そういったことをやっているというところが大きく違うと思っていて、その環境を育てるハードをつくっていったりとか、保全したりという、その活動を通じて、その場所を大切に思う人々を育てていくとか、ネットワークを育てていく、そういうことが起こっているのが、きっと景観づくり活動部門の表彰対象になるんだろうなというふうに感じるわけです。

そう思うと、景観まちづくりというのを支援するための何か仕組みみたいなものも、できれば区としてやって行っていったらいいのかなというふうに思いました。

例えば、受賞者の方々に、先ほど発信というふうに言ったんですけれども、ほかのまちづくりをやっている方々に自分たちのやっている活動を伝えていただくような場を設けたりとか、あとは、特に場所づくりにかかわることですので、現在はないと思うんですけれども、区の助成制度としてハード整備への助成をするような例えば仕組みを整えていくなど、景観まちづくり賞と一般的なまちづくり支援の仕組みみたいなものを連携させたりとかということができたら理想的だなというのを感じました。

三つ目に、先ほど、呑川に関心がないというようなお話があったと思うんですが、何でかなというふうに考えると、なかなかかかわ

りにくい川なんだろうなと思うんです。手を出しにくいというか、そういう川なんだろうなというふうに思うんです。そうすると、このまま放っておいても、恐らく呑川で活動するような団体であるとか、景観をよくするような活動というのはなかなか育たないのかなと思うと、こちら側から何か仕掛けるということをやっていないと、本当に私もシンボリックな川で、いい環境になってほしいと思っているんですが、なかなかそういうふうに環境改善が難しいのかなと。区だけが頑張っていけばいい問題でもないだろうなと思うと、例えば、景観づくりのアイデア賞みたいなもので呑川を舞台とするようなアイデアを募集して、実際にそれができるかどうかわからないけれども、さまざまなアイデアを区民の方々から募集してみるとか、そういうことで呑川への関心を高めていくというようなことも考え得るのかなと。こちらから仕掛けるようなこともやっていくべきだろうなというふうに感じました。

以上です。

野原部会長      ありがとうございました。

私もヒアリングなんかいろいろ参加していますと、お困り事みたいなのが結構あったりするんだなというのを、課題というか、こういうところがわからないとか、課題になることというのも幾つかあるのかなというふうに思ったりもして、なので惜しいという活動も結構たくさんありました。そういう意味では、少しそういったところの背中を押してあげられるような、そういうあり方というものも今後も課題なのかなというふうに思っています。

横浜ですと、まち普請事業と言いまして、ハードの整備を、横浜の場合、市民の方々が自分たちで、こういう活動でこういうのをやりますというのを審査して、審査の中で選ばれたものが助成を受けるという、そういう仕組みがあったりするんですけども、それがそのままがいいかどうか、また別ですけども、何か違った形でもそういうことで何か後押しできるものがあるといいのかなというふうに思います。

では、加藤委員、よろしく願いいたします。

加藤委員      私も二つの観点で話したいんですけども、一つは今回の受賞の

結果をどう活用するかということですが、やはり、多くの区民の方々に認識していただくということで、情報を発信し続けることが必要かなとは思っています。

情報と言いましても、今回、私、委員の中でも発言していたんですけれども、絶対これプレートをつくって、現場の近くに置いて、区民の皆さんの目に見えるようにしないとだめだよというふうに申し上げたんですけれども、一つそういうプレートがあれば、町歩きをしている人が、ここに対してこういう賞があって、こういうものがあるんだよというのが口づてというか、すごく広まっていくと思うんです。ですから、今年度受賞されたものも、次回の賞ができるときには予算を確保して、各現場の近くにプレートを置けるような形にさせていただきたいなど、これは私からの希望なんですけれども。

それと、あと、今回は賞状を皆さんのほうに渡されたんですけれども、それも私は活用方法ということで、皆さんの団体の一番目立つところに、こういう賞をもらいましたと。今回の賞状というのは結構デザイン的にも凝ったものと聞いていますので、多くの人に見ていただける場所に、ぜひ飾っていただきたいなというふうに思っております。

あとは小冊子みたいなものに残して、できるだけ多くの方に配布するとか、次年度以降続けるのであれば、毎回冊子をつくるとか、合本をつくるとかということで広めていけば、こういう景観に対する関心も高まるんじゃないのかなというふうに思っております。

それと、今後の期待というところですが、今回1回では多分終わらないと思います。継続していくと思うんですけれども、やはり、この賞だけで単体でやっていくじゃなくて、オール大田という形でできないかなという、私の個人的な妄想なんですけれども、考えております。似たようなイベントとして、先ほど、区長のほうからも話があったと思うんですけれども、大田ユネスコ協会がやっている大田地域遺産写真展とか、観光協会と広報課がやっている大田写真コンクールというので、写真を集めて表彰とか、冊子をつくらせているイベントもあるんですけれども、そういうのを一体化して、大田区のいいところを見つけるというような、大田区の最大のイベ

ントにすればいいんじゃないかなと。賞もいろんな賞を設けるとい  
う形で、今回、二部門だったんですけれども、多様な大田区という  
意味で、未来を目指している未来創造部門賞とか、あとは歴史を保  
存するというので、歴史保存部門賞とか、あとは自然との調和と  
いうことで、自然調和賞とか、あと商店街のにぎわいというので、  
こういうところが大田区なんだよというにぎわい部門賞とか、あと  
は先ほどあった公共施設の大田区の象徴としての施設はこうだよと  
いうような、そういうような大田区の多様性に合ったような賞を設  
けていけば、皆さんの関心も高まるんじゃないのかなと。

また、最後に話しておきますと、あとはできるだけそういうイベ  
ントは区民の方々が参加できるようなイベントにして、自分たちの  
地域でこういういいものがあるよということ、それぞれのところ  
で自慢し合うというような、そういう場があれば、地域の人々の自慢  
もわかるし、ほかのところのやっているいいところも自分のところ  
に取り入れることもできると思うので、そういうような地域ごとの  
自慢大会をオール大田でやれば盛り上がるんじゃないかなという妄  
想を持っております。

以上です。

野原部会長 ありがとうございます。

そのまま荘委員、コメントよろしく願いいたします。

荘委員 今後の景観まちづくりへの期待ということで、特定の景観への注  
目度ということで関連してないんですけれども、例えば、大規模開  
発とか、事業者さんが主体になっているようなところとか、あるい  
は歴史や伝統がもともとあるところ、いわゆる名所旧跡のたぐいの  
ようなところというのは、もともと不特定多数の人に頻繁に見られ  
る、注目されるというところがありますので、景観として維持保全  
すべきか、あるいは活用・発展すべきか、いろいろあるとは思って  
いますけれども、景観としてそれなりに成り立っていくと言いますか、  
維持されていくというか、ある程度、放っておいても大丈夫的な安  
心感があると思うんですが、それに対して一見すると、何ら特に景  
観資源もないような、何でもないような眺めとか、いわゆるそれが  
生活空間だったりするかもしれないんですけど、いわばふだん着の

景観のような、そういったところというのは、それほど頻繁には不特定多数の人は注目してくれないし、眺めてくれないというところがあるわけで、放っておいたらどうなっちゃうんだろうと、でもなくなったら困るよねと。先ほど、紅葉通りの受賞者の方もそのようなことをコメントされていたかと思いますが、そういったところ、ふだん着の景観的なところをきちんと評価する、スポットライトを当てて知らしめるというのも景観賞を含めてやっていかなくちゃいけないことなのじゃないかなというふうに思っています。そういうことを期待しています。

それから、もう1点は、景観というのは、先ほども五感で感じるものなんじゃないかというお話が平澤委員のほうからありましたけれども、私も景観は空気のようなものというか、あって当たり前で、ふだんは余り意識しないんだけど、あって当たり前なものじゃないかなというふうに思うところがありまして、そう考えると、心地よい景観というのは、そこに身を置くその人たち、人間にとっては、無意識のうちに安心感をもたらすものだと思うんです。何か納得づくの安心感じゃなくて、無意識のうちに何か安心できるというような、そういったものだと思いますし、景観を考えると、考えていくということは、安心感という快適さのある空間そのものにつながっていくんじゃないかなというふうに思っています。

例えば、路上に散乱しているような看板とか広告物を整理していくとか、ブロック塀を生け垣にかえて、緑をふやしていくとか、電柱とか電線を地中に埋めていくとか、そういったことというのは、見た目がすっきりするという意味ではもちろん景観的な意味合いもあるんですけど、でも、それだけではなく、安全・防災面とか、本当に災害時の対応であるとか、そういった安心・安全というところにも寄与していく、つながっていくところがあるんじゃないかなというふうに考えます。

そう考えると、景観賞というのは、景観だけのものということではない広がり、可能性を秘めているんじゃないかなというふうに思うに至りまして、そういったところも今後ぜひ景観まちづくりの一環としてつながっていくといいなというふうに期待しています。

野原部会長      ありがとうございます。

では、平澤委員、よろしくお願いいたします。

平澤委員      本当は受賞にふさわしい賞金があるといいのかなという感想はちょっと受けました。それで、これも予算のあることなので、いつ実現できるかどうかわかりませんが、あと、景観賞めぐりみたいな、そういう観光と言えるのかどうかわかりませんが、そういうものができてくるといいなということで、それと、こういう景観づくりというか、いろんな参加を通じて、結局は地域コミュニティの充実というか、そこへ気鋭するのかなという気がするんです。先ほど、荘さんも言われたように、景観だけじゃなくて、それから波及するものが大事だよということで、人間関係がそういうものをつくる。それから、自分たちの町は自分たちでよくしていこうよと。気持ちのいいまちづくりをしようよ。それが、結果いい景観が生まれるのかなというようなところで、目指すところはそこになっていくかなというふうに思います。

それと、あと、景観賞の今後は、皆さんに周知して掘り起こしということが当然あるので、そういう周知の仕方、あるいは掘り起こしの仕方というところにも目を向けて、当面はそういうところから入って行って、みんなが気づいて、景観賞をとった人たちのノウハウなり、そういうものを勉強して、自分たちの地域のまちづくりに生かしていく、こんなようなことかなというような感想です。

野原部会長      ありがとうございます。

では、杉山先生、よろしくお願いいたします。

杉山委員      この受賞の成果を生かすかなんていうことをちょっとぼんやり考えておりましたけれども、今、受賞者の方でここに残ってくださっている方には、ぜひ、お帰りになったら、受賞パーティーをお願いしたいなど。ご近所でぜひ自慢をして、張り紙でもないですが、ちょっとパーティーやりますよみたいなことでお声がけいただけるとうれしいなど、そんなふうに思ったりします。

賞というと、本当に立派なもののように、もちろんきちんとしたものでございますけれども、楽しく町にかかわっていくということを皆さんで広めていただけたらうれしいなと思っております。

今回から始まった景観まちづくり賞という名前でございますので、やはり、委員の皆様も活動がかかわってなきやいけないんじゃないかとか、ネーミングによって、すごく積極的なものを選ばせていただいたと、そんなふうに思ったりします。

一方、先ほど来、私は、野原先生もおっしゃっていましたが、モダニズム建築みたいなものですか、存在していて、大田区は一つ住宅街の開発というようなことでは、ほかの地区とちょっと違う歴史を持っていると思ったりいたします。そういったような、東京の住宅地開発みたいなことにいろいろ寄与してくださった建築の方の自邸がまだ本当に残っていたりとか、でも、それだと景観まちづくりなのという疑問も湧いてきたりいたします。

なので、これの形をまた、加藤委員がオール大田でということの中で、いろんな部門をおつくりになったらいいんじゃないかなとご意見もございましたけれども、私も、それから荘委員がおっしゃったみたいに、安心であって、本当に空気のようなんだけど、大田区の魅力を支えてくれている誇りに思える景観だとか、風景だとか、建物だとか、そういうような背景と言いますか、ベースとなっているも、地になっているようなものというのを、どんどん掘り起こして、皆さんもご存じのようところがいっぱいあると思うんですけども、賞でもないが、何か認定していくみたいな、そういうような、何とか賞という名前をつけていいのか、私、余りアイデアがないんですけども、そんなふうに、これ以外というか、これに加えて設定できたらいいなというふうに、例えば、小空間ですとか、商業のまちの中で、それこそ看板一つでも「いい看板だね」というようなものも選べないかなとか、道路でも、すてきな並木道にしてくれたねという公共事業でも、そういった幅広い中の景観、本当にいろいろな視点がございまして、それらをみんなで話題にしているだけのような、そんな活動の端緒にさせていただいたらなど、こんなふうに思っております。そういった皆さんの力をかりて、どんどん固定的じゃなくて成長するような景観まちづくり賞というような形で、かかわる人はこれからもっと大変になるよというようなことに恐れを抱きますけれども、そんなふうに願ってやみません。

以上でございます。

野原部会長 ありがとうございます。

宿題満載というか、いろんなご意見をいただきましたと思います。

時間が迫っておりますが、最後に会場のほうから、もし、質問やご意見があったら受け付けたいというふうに思っております。きょうの議論を含めて何でも結構ですので、会場のほうから、もしご質問があったら挙手でお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしく申し上げます。

杉村氏 観光協会の杉村と申します。

今、パネラーの方から、ぜひこの景観を観光に生かしてはということがありました。私どもは、町めぐりガイドさんの養成講座をやりまして、ガイドさんは50人ぐらいいらっしゃるんです。ガイドコースのツアーもやってございますので、部局と連携をして、ぜひ、これを皆さんに広めるような活動をしていきたいと思っておりますので、請うご期待ください。

以上です。

野原部会長 ありがとうございます。一緒にいろいろなプログラムがたくさん組めるような気がしますので、ぜひ期待しております。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。もう一つぐらいはいけるかなと思いますが、ございませつか。よろしいですか。

時間が迫っておりますので、終わりにしたいと思います。いろんな貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

私の感想としても、先ほど申しましたとおり、本当に魅力的な景観の再発見というか、そういう場として、今回の景観まちづくり賞を位置づけることができたかなというふうに思っておりますが、今後これをどうやって生かしていくかなというふうな課題があるかなと思います。

1分だけお時間をいただければと思うんですけども、実はこういう景観まちづくりの表彰というのは、ほかの自治体でもたくさんいろんなことをやっています、私がよくかかわっているのは、私は横浜国大ですので、横浜で、私は選定ものにはかかわっていない

んですけれども、それを最後にみんなでまとめて認める委員会みたいなほうにいます。が、「横浜・人・まち・デザイン賞」という名前、今、7回目まで行っております。次は8回目かな。2年に1回ぐらいお休みの時期もあるんですけれども、こちらも景観部門というか、街並み景観部門と、地域まちづくり部門というのは、もう景観を飛び越えていまして、地域のまちづくり全体を表彰しているので、ここではなじまないかもしれないんですけれども、あちらも7回もやって、いろいろ試行錯誤をやってきているようです。あちらでも土木構造物、左上は橋ですね、橋とか、あるいは商業施設とか、いろいろなものを挙げているんですけれども、最近、例えば、左上は防火帯建築という50年代の街並みを評価しているもので、これは実は蒲田にもありまして、こういうものも評価できるのかなとか、あと、右下が特徴的ですよね、バスです。ラッピングバスなんですけれども、山手という地区があって、山手地区ならではのラッピングバスをみんなで考えようという、そういったものが街並み景観部門として評価されていたりするんです。

先ほどの交通の話もありましたけれども、今後、こういったものを広がりある大田らしい景観として考えていくのかというのは、今後、我々も含めて大きな課題かなというふうに思っております。

あるいは、福岡市は26回ぐらいいろいろやられているらしくて、見ると、いろんな景観があって、結構何でもありだなというのが見えてきまして、その他のところなんかを見ますと、彫刻とか、このバスとか、あるいはJRとかもありますね。あと、デザインングというのは展示会が景観賞で選ばれたりとか、ここまで幅広いとなかなかあれなんですけれども、これは26回の実績かなと思うんですけれども、さらにおもしろいのは、ウェブマガジンみたいなものがありまして、これで一つずつ紹介していたりするとか、あるいは景観賞が審査会がツアーになったりして、すごいなど。二次審査作品をめぐるツアー、そういったものもあつたりとかしています。

あるいは世田谷区は、これは表彰というよりは、地域の風景資産というのを選ぶところなんですけれども、こちらは推薦した人が、推薦したら、まずプランを書けと言われてまして、これからどうい

風景づくりをするかちゃんと計画を立てなさいとかと言われて、立てたらやりなさいと言われるので、選定というか、推薦すると、自分たちが活動しなきゃいけなくなっちゃうということです。そういうのがセットでくっついていたりするんです。

そういったところもあったりして、今後、大田での風景、景観づくりをどう考えていくかというときに、今回は本当に終わりじゃなくて、まさにここが始まりというか、スタートで、その広がりはどうやってつくっていけるかなというのが、今後の豊かな景観づくりの勝負になるのかなというふうに思っておりますので、今回受賞された皆様は引き続きそれぞれの景観をよくしつつ、さらに周りに普及と言いますか、景観づくりや、そういう魅力を伝えていただく活動をしていただければなと思いますし、それ以外の皆さんも、どんどんいろんな豊かな景観づくりをしていただいて、大田、先ほどオール大田という話がありましたけれども、全体で大田の魅力をつくっていけるような、そんな豊かな景観づくりができるといいのかなというふうに思っております。

ちょっとお時間を超過してしまいましたが、これでパネルディスカッションのほうを終わりにしたいと思いますので、最後にご登壇いただいた先生の皆様に拍手で終えたいと思います。どうもありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長      どうもありがとうございました。

続きまして、最後でございますが、大田区景観審議会会長でございます、東京工業大学大学院教授でございます中井会長より一言ご挨拶をお願いいたします。

中 井 会 長      皆さん、大田区の景観審議会の会長をしております東京工業大学の中井と申します。本日は夜遅くまで誠にご苦労さまでございました。

まずは第1回の大田区景観まちづくり賞を受賞された皆さんにお祝い申し上げたいと思います。おめでとうございます。

それから、先ほど、野原先生からもございましたけれども、大変多数の応募をいただきました。応募された皆さんに大田区の景観審

議会としまして感謝を申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。

景観審議会は、最初は景観計画というのをつくりまして、これはどちらかと言うと、規制だったり、ルールだったりということで、こちらのほうは大変大事なほうの仕事で、簡単に言うと、マイナスをふやさない仕事なんですけれども、そちらのほうを主にやっているわけなんですけれども、それだけだと、なかなか景観というものはよくなっていかないだろう。やはり、普及ですとか啓発ですとか、あるいは、いいものをほめていく活動、表彰活動ですね。そういうものでプラスをふやしていくということが非常に大事だということをして景観審議会の中でも、いろいろ議論をしてまいりまして、それでようやく今回第1回の大田区景観まちづくり賞ということができるという、そういうことになりました。

そういう意味では、景観審議会として、景観計画を着実に運用していくということのほかにも、こういう活動をしていく、ようやく両輪が回り始めたなというように思っております。

ちょっとだけお時間をいただきまして、お話しさせていただきますけれども、今回の景観まちづくり賞は、二部門ございます。街並み景観部門というのが一つの部門でございまして、こちらは物件、建物ですとか、あるいは街並みという「物」が対象になっております。もちろん、良好な景観を維持していくためには、オーナーの皆さんですとか、あるいは事業者の皆さん、設計者の皆さん、関係者の皆さんが努力をしていかないと、なかなかそういういい景観が保たれないということでございます。

それから、もう一方の景観づくり活動部門は、対象は活動ということなんですけれども、その結果で大変良好な景観ができているということは、きょう2件ございました例でも、皆さん、よくご理解いただけるんじゃないかと思っております。

その意味では、二つの部門は、いわば一つのコインを表と裏から見ているという関係になっていると思います。景観とそれにかかわっている人々の志ですとか、あるいは努力ですとか、活動といったものが、物の景観と一緒にあって地域の価値を上昇させているとい

うのが今回の景観まちづくり賞ということで、景観賞ではなくて、あえて景観まちづくり賞と大田区が名前をつけている、その理由がそういうことであり、最初に第1回ということで受賞された7件、そういう意味では、景観まちづくりの真骨頂を実現されているのかなというように思いました。

議論の中でもございましたけれども、大田区の景観というのは大変多様でもございます。しかも、大部分はいわゆる生活景というもので、なかなかその特徴を捕まえにくいということかと思えます。

こういうところの景観づくりはなかなか難しい面もやはりございまして、一番難しいのは、なかなかあるべきイメージというのをつくりにくいということだろうと思えます。しかも、大田区は東京23区の一翼を担っているということもあって、非常に変化が激しいということで、そういうダイナミックに変わっていくまちのあるべき景観というのは、どういうものなんだろうかというのは、なかなかつかみづらい、専門家の中でも多分意見がいろいろ分かれるようなところなんじゃないかと思えます。

結論から言うと、変わっていくまちは変わりながらよくしていくということしかないのかなというふうに思っているんですけども、それでも一つ一つ出てきたものを場当たりのよくしていくと、こちらのほうも大事なんですけれども、それだけだとやはり多分だめで、足元ばかり見ていると、なかなか前に進めないのと同じように、少し視線を前に向けて、遠くに向けるという部分が必要なのかなと思っております。視線を遠くに保つためには、やはり、よりどころが必要で、この地域はどういうふうなイメージを持つべきなんだろうかと、あるいは、この地域は大きく変わっていきそうだけれども、どういふ変え方をしていけばいいのかというときに、こういった景観まちづくり賞を受賞されたようなものというのが、やはり大きなよりどころになると思っております。

今回、第1回ということで、まだ七つでございますけれども、これをどんどんふやしていくということで、よりどころを多くしていくということが大田区の景観まちづくりをますます発展していく上で重要なのではないかなというように、きょう、感じた次第でござ

います。

夜遅くまで本当に皆さん、ご苦労さまでございました。簡単ではございますけれども、私からの総括とさせていただきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

(拍手)

保 下 課 長 中井会長、ありがとうございました。

また、各パネリストの皆様、どうもありがとうございました。

これをもちまして、本日開催させていただきました大田区景観まちづくり賞表彰式、また、二部のパネルディスカッションにつきまして終了させていただきます。

本日は夜遅くまで、皆様、どうもありがとうございました。

(拍手)